平成 26 年度　科学技術振興機構　サイエンス・パートナーシップ・プログラム

動物園大学―野生動物学のすすめ―　Vol.3

【野生動物との共生＋吊るし柿作り体験】

○開催日時：平成２６年１１月３日（月）９：３０～１２：３０

○担当：京都大学農学部　高柳敦

京都市動物園　生き物・学び・研究センター　課長補佐　和田晴太郎

京都市動物園　種の保存展示課　飼育員　小林幸雄

〃　〃　野生鳥獣救護員　森本直樹

京都大学野生動物研究センター　技術補助員　前垣慧

○参加者：京都市立高野中学校　生徒８名，引率２名

同志社女子中学校　生徒２名，引率１名　計１３名

○活動内容

京都市動物園野生鳥獣救護センターでは，交通事故や窓ガラスへの衝突など人との関わりの中で傷ついてしまった野生動物（鳥類・哺乳類のみ）を保護・治療し，自然に戻す活動を行っている。しかし，昨年１０月から農林水産業や生活環境に被害を与えている一部の動物については，その被害が甚大であり生産者や地域社会にとって大きな負担となっていることから，新たに救護対象から除外した。この仕組みによって持ち込まれる野生動物が大幅に減少した野生鳥獣救護センターでの保護状況の変化を知るとともに，野生動物による被害の発生機構に関する生物学的側面，被害防除に関する実学的側面，保護管理の社会的位置づけに関する社会学的側面に関する研究を行っている研究者から話を聞く。

そして，獣害に悩む地域において，放置された柿の実がクマやサルが人里に侵入するきっかけとなることから，その被害防止対策の一つとして実施されている「柿もぎ」作業及び「つるし柿」作りを体験し，野生動物と人との適切な関係について理解を深めていく。

○プログラム

09:30　オリエンテーション

09:35　野生動物による被害の発生機構と対策～科学が支える共存社会へ～　京都大学　高柳敦

10:35　柿もぎ，つるし柿作り　生き物・学び・研究センター　和田晴太郎

12:00　京都市動物園野生鳥獣救護センターでの活動の変化　野生鳥獣救護員　森本直樹

12:30　まとめ

12:40　終了

まずは，フィールドで御活躍されている京都大学の高柳先生のお話を聞きます。

害獣という動物はどんな動物か？との問いから始まり，戦後の野生動物被害の変化を示した後に，野生動物と闘いながら共存していた江戸時代の暮らしを例に挙げられ，「野生動物の存在を認める社会を作りたい」との思いを語られました。

そして，野生動物保護管理には，「生息環境管理」「個体群管理」「被害管理」の 3 つの管理を総合的に行う必要があり，自分たち専門家が正しく科学的情報を示していくことが大切であることを説明されました。あわせて，今年は、クマの重要な餌である堅果類の凶作年と推察されていることや、10 月頃からクマの出没情報が特に多くなっているなど、森とクマの出没についての解説がありました。なぜ豊凶現象（一斉結実）が起こるのかは解明されていないことや，凶作年には餌付け問題が起こっていることなどの話もありました。

参加した中学生にとっては，これまでに聞いたことのない言葉が出てきたり，理解が難しい様子も見受けられましたが，高柳先生からは「野生動物文化のクリエーター」として期待するとのエールが送られ，第一部は終了しました。

第二部は，柿もぎ，つるし柿作りです。

まずは，動物園・フクロウ舎の南にある柿の木から実を採ります。

※柿の木は上下水道局疏水事務所の管理エリアに自生しており，実をもぐにあたり許可を得ています。

もともとは竹で作った柿収穫用竿を使うのですが，今回は高枝切りばさみを使用しました。

見事，柿の実をゲット。

これを使えば，力の弱い女子学生も，

しっかり結実枝を確保して，先生にパス。みごとな連携プレーを見せてくれました。

ある程度，実を収穫した後，調理場にもどり，吊るし柿にするための準備を行いました。
まずは，枝ごと収穫しているので，不要な枝葉とヘタを取り，包丁で皮をむいていきます。

中学生男子（６名）は，なかなか包丁を扱う機会がないのか，皮むきに苦労していました。

それに比べ，女子の参加は，引率の先生を含めて３名でしたが，男子以上に処理していたように思います。

ちなみに，動物園飼育員に男性が多いのですが，みんな包丁の扱いがとっても上手いので，やはり経験することが大切ですね。

吊るす準備が出来たら，約６０ｃｍの紐の両端に柿の実を結んでいきます。

結び終えた柿は，熱湯に約５秒間浸けて消毒します。

消毒を終えた柿の実を，野生鳥獣救護センター２階の１室に運び，吊るして行きます。

ポイントは，柿どうしがくっつかないようにすること。上下・左右に気をつけながら並べて行きます。

最終的に１６０個の吊るし柿が出来ました。この後，２週間～４０日位乾燥させて出来上がりです。

そして，第３部へと続きます。

最後は，京都市動物園野生鳥獣救護センターでの救護状況についてです。

担当するのは，野生鳥獣救護員の森本くん。

ここ野生鳥獣救護センターは，京都府から委託を受けて運営しており，昨年１０月から農林業被害や生活被害が認められる鳥獣が救護対象外になるとともに幼鳥・幼獣の受入も中止されました。そのため，救護センターに鳥獣が持ち込まれた際に，これらの状況得を説明する機会が増えているが，理解してくれる方もいれば，被害を実感できない方からは理解が得られないケースもあることを説明しました。

また，現在保護されているアカショウビン・ヤマシギ・キツネなどの状況も説明するとともに，誤った救護などが起こらないように取組んでいることを説明しました。なお，高柳先生から保護されているキツネに関して，「森の中でこの匂いがしたらキツネがいる場所かいた場所と判断しています」とのコメントがあり，さすが森の専門家と感心しました。

最後に，今回の講座のまとめを行い，プログラム終了です。皆さん，お疲れ様でした。

今後，吊るし柿の状況についてはブログ等でお知らせしながら，動物たちの餌として活用していきたいと思います。

京都市動物園
生き物・学び・研究センター
課長補佐　和田晴太郎
Tel: 075-771-0210（代）
mail:ikimonomanabi@city.kyoto.jp